

魅力ある学校づくり説明会 実施報告

1 開催日時

- (1) 令和8年7月25日（土）
午前10時から午前11時35分まで
- (2) 令和8年7月25日（土）
午後4時から午後5時10分まで
- (3) 令和8年7月26日（日）
午前10時から午前11時10分まで
- (4) 令和8年7月26日（日）
午後4時から午後5時まで

2 会場

- (1) 白岡中学校 体育館
- (2) 篠津中学校 体育館
- (3) 菁莪中学校 体育館
- (4) 南中学校 体育館

3 説明内容

「白岡市の将来の学校づくりに向けた取組状況について」をテーマに、魅力ある学校づくり推進室から説明を行いました。

主な内容は、以下のとおりです。

- (1) 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画策定の流れと進捗状況
- (2) 学校を取り巻く現状と課題
- (3) 目指すべき学校のあり方を実現するための「将来ビジョン」
- (4) 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置の方向性
- (5) 今後のスケジュール

4 参加者数

- (1) 白岡中学校区 14名
- (2) 篠津中学校区 18名
- (3) 菁莪中学校区 19名
- (4) 南中学校区 5名
- 合計 56名（4会場合計）

5 質疑応答

説明会では、学校再編の方向性や時期、通学環境、学校施設の整備、小中一貫教育、地域との連携、学校跡地の活用などについて、さまざまなご意見・ご質問をいただきました。

市では、いただいたご意見等を今後の計画づくりの参考としながら、引き続き検討を進めていきます。

いただいた主なご意見・ご質問とそれに対する市の回答は、以下のとおりです。

※ 掲載内容は、説明会での主な質疑及び回答を整理・要約したものであり、すべての意見等を掲載しているものではありません。

(1) 白岡中学校区 主な質疑応答

説明会の周知方法や計画の柔軟性について

【質問】

説明会は参加者が少なかった。今回の説明会の名称では、学校再編の話であることが伝わりにくく、対象となる保護者や関係者が自分事として捉えにくかったのではないかと。今後は、内容が分かりやすく伝わるような発信方法を工夫してほしい。

また、人口減少は全国的な課題である一方、子育て世代の移住などにより人口が増加する自治体もある。今後の人口動向や学校建設における人手不足、物価高騰などの状況も踏まえ、柔軟性を持った計画としてほしい。

【回答】

説明会の名称については課題として認識している。今後は、市民の皆様に内容が伝わりやすく、自分事として捉えていただけるようなタイトルや周知方法を検討していく。

学校再編については、他自治体の事例も参考にしながら、実現可能性を踏まえた計画づくりを進めていく。人口動向や児童生徒数の推移などを踏まえ、状況が変化した段階では人口推計を行い、その結果を学校再編の検討につなげていく。

令和8年9月末までに学校再編の素案を作成し、市議会等との協議を行った上で、12月の市民説明会で具体的な計画を示す方向で進めている。

地域への周知について

【質問】

学校再編は、現在学校に通う子どもの保護者だけでなく、地域全体に関わることである。地域のキーマンとなる方々や今後関係する未就学児の保護者にも関心を持ってもらえるよう、周知を進めてほしい。

【回答】

行政区長など地域の関係者への働きかけを行っていく。また、未就学児の保護者についても今後関わりを持つ方々であることから、情報が届くよう周知していく。

地域と連携した学校づくりについて

【質問】

将来ビジョンでは、地域を題材とした探究学習やコミュニティ・スクール、体験活動などが示されている。地域の資源や人材を学校教育とどのようにつなげていくのか。

また、学校は地域コミュニティや防災の拠点でもある。公共施設との複合化・共用化や多目的スペース、共同学習室など、将来の学びに対応した施設整備についても検討してほしい。

【回答】

地域との連携については、学校運営協議会などを通じて地域の皆様の意見を伺いながら、具体的な取組を考えていく。

これからの学校施設については、個別学習や協働学習など多様な学びに対応できるよう、ICT教育の整備を含めこれからの学習に適した施設空間について検討していく。

また、防災拠点については重要な視点であると認識しており、市長部局とも連携しながら、公共施設のあり方を踏まえた学校施設の整備について検討していく。

特別支援学級や不登校児童生徒への対応について

【質問】

資料に示されている学級数は普通学級の想定だと思うが、特別支援学級の増加や少人数指導、不登校児童生徒への対応について、どのように考えているのか。

【回答】

資料で示している学級数は普通学級を計上している。特別支援学級や不登校児童生徒への対応については、年々増加している状況を踏まえ、検討していく必要があると認識している。

既存施設のスペースを有効活用するとともに、学校再編や複合化によって生じる施設等の活用についても検討していく。

小中一貫教育の課題について

【質問】

小中一貫教育について、メリットだけでなく、想定されるデメリットや課題についても示してほしい。

また、「開かれた学校」は誰が主体となって進めていくのか。

【回答】

小中一貫教育の課題としては、人間関係の固定化、小学校と中学校の指導文化の違い、転入・転出する児童生徒への対応などが挙げられる。

人間関係の固定化については、他校との交流事業や合同活動などを通じて、多様な人と関わる機会を確保していく。

指導文化の違いについては、教員同士の交流や情報共有を進め、9年間を見通した指導体制や支援のあり方について共通理解を図っていく。

転入・転出する児童生徒については、学習面や生活面からきめ細かな支援を行い、円滑になじめるよう取り組んでいく。

「開かれた学校」については、教育委員会が中心となり、学校や地域の皆様と連携しながら進めていく。

小中一貫教育の準備や教職員への周知について

【質問】

白岡中学校区については、西小学校と白岡中学校の1小1中という形で進むのであれば、他地区より早く小中連携の取組をはじめられるのではないか。

また、小中一貫教育を進めるには教職員の理解が重要である。今後、どのようなタイミングでどのような形で教職員への指導や準備を進めていくのか。

【回答】

教職員への周知については、令和8年8月に全体研修会を予定してお

り、その中で小中一貫教育について理解を深めてもらえるよう取り組んでいく。また、機会を捉えて内容の周知を図っていく。

小中一貫教育の準備については、小学校と中学校の教員が共通の目標を持ち、9年間を見通した教育の仕組みを整えていくことが重要であると考えている。

他自治体の事例も参考にしながら、十分な準備を行い、着実に進めていく。

教室不足への対応について

【質問】

西小学校では児童数増加への対応として施設整備が進められているが、今後、白岡中学校でも生徒数の増加により教室数が不足することが考えられる。将来的な対応について検討してほしい。

【回答】

児童生徒数の推移を見ながら、必要となる教室数の確保について検討していく。施設改修などの機会に合わせ、必要な対応を検討していく。

魅力ある学校づくりに向けた教職員の育成について

【質問】

魅力ある学校をつくるためには、施設だけでなく、子どもたちを育てる教職員の力が重要である。熱意を持って教育に取り組む教職員の確保・育成に努めてほしい。

【回答】

熱意ある教職員の確保については、人材を育成していくことが重要であると考えている。

初任者研修、5年目研修、10年目研修など、様々な研修を通じて、子どもたちの教育に意欲を持って取り組む教職員の育成に努めていく。

学区の見直しについて

【質問】

現在、篠津小学校から白岡中学校ではなく篠津中学校へ進学する児童も多い。今後、篠津中学校と白岡中学校の関係や学区の扱いについて、どのように考えているのか。

【回答】

今後の学校の適正規模・適正配置については、小学校3校・中学校3校の方向性を軸として、令和8年12月の市民説明会において具体的な内容を示す予定である。

学区は、児童生徒の通学環境や学校配置を考える上で重要な事項であり、地域と学校のつながりや一体性にも関わる大切な仕組みである。

学区の見直しについては、地域で培われたつながりを損なうことのないよう慎重に検討するとともに、学区の境界付近に住む方については、通学の利便性などを踏まえ、柔軟な対応についても検討していく。

学校跡地の活用について

【質問】

学校再編により、学校としての機能を持たなくなる施設が生じることも考えられる。その場合、学校跡地の活用については、地域と話し合いながら進めるのか。

また、地域のため、市全体のためになるような活用方法を住民と一緒に検討してほしい。

【回答】

学校跡地の利用については、今回の学校再編計画と併せて検討していく必要がある。

一方で、地域の皆様の意見を伺いながら進めることが重要であり、一定の期間を要することから、学校再編計画と同時に全てを取りまとめることは難しいと考えている。

市長部局の担当部署において公共施設のあり方について検討しているところであり、教育委員会としても連携・調整を図っていく。

地域の意見を反映した学校づくりについて

【質問】

学校再編は誰が決定するのか。地域の意向はどのように反映されるのか。

学校は地域にとって大切な存在であり、運動会や防災訓練などを通して、子どもたちと地域がつながる場にもなっている。地域との関係を大切にして進めてほしい。

【回答】

学校再編については、教育委員会が地域の意見を伺いながら検討し、決定していく。

令和８年１２月の市民説明会や必要に応じて座談会を開催するなど、市民の皆様の意見を伺いながら進めていく。

また、行政区のあり方などについては、市長部局へ情報提供する。

(2) 篠津中学校区 主な質疑応答

適正規模・適正配置の基準について

【質問】

学校の適正規模・適正配置の基準は、どのような根拠に基づいて設定しているのか。

【回答】

適正規模・適正配置の基準については、基本的には国が示している考え方を踏まえて設定している。

適正規模について、国では小学校において１学年２学級以上の学級数を確保することが推奨されているが、本市では、効果的なクラス替えや多様な指導形態を可能とするため、１学年３学級以上を基準として設定している。

学校再編の具体的な時期について

【質問】

令和９年３月に計画が完成予定とのことだが、その中で示される学校再編の具体的な実施時期について、いつ頃になるのか見通しを示してほしい。

また、住民として今後どのような対応をすればよいのか分かるよう、具体的なイメージを示してほしい。

【回答】

令和８年９月末までに学校再編の素案を作成し、市議会等との協議を行った上で、令和８年１２月の市民説明会では、学校再編に関する具体的な計画を示す方向で進めている。

その後の具体的な学校整備については、本計画では２０年間の計画期

間を想定しており、学校再編の内容や整備時期について、計画の中で示していく予定である。

篠津中学校区については、篠津小学校、篠津中学校、白岡東小学校の3校を統合した義務教育学校の設置も含めて検討している。

篠津小学校は築60年が経過しており、建て替えには一般的に5～6年程度を要することから、スピード感を持って検討を進めていきたい。

地域に開かれた学校と安全対策について

【質問】

将来的に学校を地域コミュニティの拠点として活用する考えが示されているが、学校は子どもたちにとって安全・安心な場所でもある。地域に開かれた学校と子どもの安全をどのように両立していくのか。

【回答】

学校に地域の方が関わることになるため、安全面について心配される点は理解している。

新たに学校を整備する際には、地域の方が利用する場所と児童生徒が学習する学校エリアを分けるなど、セキュリティを確保できる仕組みについて検討していきたい。

こうした仕組みについては、既に多くの自治体で導入されているため、先行事例を参考にしながら検討していく。

学校再編と跡地利用の考え方について

【質問】

学校の適正規模化については理解するが、学校跡地の利用については別の問題ではないか。

跡地利用を先に考えているのか、それとも子どもたちの適正規模・適正配置を先に考えているのか。

【回答】

子どもたちのことを最優先に考えている。跡地利用を優先して進めているものではない。

学校整備に必要な期間と準備について

【質問】

学校施設の整備には5～6年程度かかるとの説明があったが、その期

間には準備委員会の設置など、学校再編に向けた準備期間も含まれているのか。

また、学校再編前から、ＩＣＴを活用した交流や学校間交流などを進めることもできるのではないか。

【回答】

学校整備については、基本計画に１～２年、詳細設計に１年、工事は近年の働き方改革等の影響により３年程度を要することが想定され、全体で５～６年程度の期間が必要になると考えている。

その過程において、主に前半部分で準備委員会を開催し、学校名や通学手段などについて検討・整理していくことを想定している。

ＩＣＴの活用については、統合する学校同士の児童生徒が交流する機会を設けるなど、子どもたちが新しい環境に安心して移行できるような取組について検討していきたい。

学校間交流と教職員の負担について

【質問】

学校再編に向けた交流や準備について、教職員の負担が増えることも懸念される。

統合時期が決まってからではなく、再編の方向性が決まった段階から、学校間交流などを徐々に進めることができるのではないか。

また、大山小学校の統合では十分な準備期間を確保することが難しかった面もあると思う。今後の学校再編では、児童生徒や教職員が円滑に移行できるよう、十分な準備期間を設けて丁寧に進めてほしい。

【回答】

児童生徒や教職員が円滑に移行できるように進めていきたい。

魅力ある学校づくりへの期待について

【質問】

学校再編については、前向きな姿勢で進めてほしい。子どもたちにとって魅力があり、より良い教育環境につながるよう取り組んでほしい。

【回答】

子どもたちにとって魅力があり、将来に向けてわくわくするような学校づくりにつながるよう、前向きに進めていきたいと考えている。

(3) 菁莪中学校区 主な質疑応答

学校再編の時期と通学環境について

【質問】

菁莪小学校・菁莪中学校を含めた学校再編について、早ければ何年後、遅ければ何年後に実施される予定なのか。

また、子どもたちの通学について、道路状況がよくない箇所もあるため、その対応や学校再編後の通学手段についてどのように考えているのか。

【回答】

学校再編の具体的な内容については、これから決定していく。

菁莪小学校・菁莪中学校の児童生徒数の減少は、大きな課題であると認識している。

菁莪中学校については、早い段階で南中学校と統合することも検討している。

また、将来的には、菁莪小学校、菁莪中学校、南小学校、南中学校を1つの義務教育学校とすることも含めて、現在、学校再編の内容を検討している。

令和8年12月に予定している市民説明会では、より詳細な内容を記載した計画案を示したいと考えている。

道路の危険な箇所については、警察、地域、関係部署などと連携して対応していきたいと考えている。

通学手段については、学校再編の実施により通学距離が伸びることが想定されるため、中学生の自転車通学や小学生のスクールバスなどについて検討していきたい。

部活動の今後について

【質問】

現在、部活動の種類が少ない状況である。今後、学校再編も踏まえ、部活動をどのように進めていくのか。

【回答】

本市では、土・日の部活動については地域クラブ活動という形をとっており、地域の方が外部指導者となって活動を実施している。

また、土・日の地域クラブ活動では、子どもたちが所属している学校にない種目に参加することも可能となっている。

一方で、平日の部活動については教員が担っているが、各学校において、生徒数の減少により活動が難しくなっている状況もある。

今後、子どもの人数が減少し、平日の部活動が成り立たなくなることとも考えられるため、状況を慎重に判断しながら、子どもたちが自由に活動できる環境について検討していく必要があると考えている。

学校再編後の防災拠点と跡地利用について

【質問】

将来的に、菁莪小学校や菁莪中学校がなくなることとなった場合、学校は地域の防災拠点として位置付けられていると思うが、代わりとなる防災拠点についてどのように考えているのか。

また、校舎を解体する場合の費用や解体後の活用方法について考えていることがあれば伺いたい。

【回答】

学校再編の具体的な内容については、これから決定していく。

防災拠点については、それぞれの地域において重要な部分であるため、具体的な内容については、市長部局と連携して検討していく。

また、跡地利用についても、教育委員会だけでなく、庁内全体で考えていく。

学校施設整備と統合の時期について

【質問】

資料を見ると、将来的に小中一貫校を目指しているのではないかと感じた。

菁莪中学校と南中学校の統合について、今後そのような方向性となった場合、統合を先に実施するのか、それとも校舎整備を行った後に統合するのか。子どもたちの環境変化について伺いたい。

【回答】

必要となる校舎の規模や教室数は、児童生徒数に応じて決まると考えている。そのため、新たな校舎整備が必要となる場合には、校舎整備を行い、必要な教室数を確保した上で統合を行うことになる、現時点では考えている。

統合までの期間について

【質問】

校舎整備を先に行う場合、学校が統合されるまでには２、３年程度かかるという認識でよいのか。

また、校舎整備を行わず、いきなり統合される可能性はあるのか。

【回答】

通常、校舎整備には５、６年程度かかると言われている。

その内訳として、基本計画に１～２年、詳細設計に１年、工事については近年の働き方改革等の影響により３年程度を要している。

一方で、例えば菁莪中学校と南中学校を統合する場合、両校の生徒数を合わせても既存の教室数で対応できる場合には、新たな建物整備を行わず、統合を実施することも考えられる。

学校再編の具体的な内容を示す時期について

【質問】

令和８年１２月の市民説明会では、例えば「菁莪中学校と南中学校を何年後までに統合する」といった具体的な内容まで示されるのか。

また、仮に２、３年後に統合が行われる場合、その時点で中学校在学中に通学先が変わる可能性がある。保護者が進学先を考える時間を確保する必要があるため、１２月の説明会で示すスケジュールで間に合うのか。もう少し早めることはできないのか。

【回答】

令和８年１２月の市民説明会では、いつまでに、どこに、どのような学校を作るのかを明確にした内容を示す予定である。

より正確なスケジュールとしては、令和８年１０月下旬に開催予定の市議会全員協議会において計画素案を示す予定である。

その後、素案について協議を行い、令和８年１１月下旬に市議会へ行政報告を行った上で、その内容に基づき１２月に市民説明会を開催する予定である。

学校再編の方向性が決まる時期について

【質問】

令和９年３月には、将来の学校再編の具体的な方向性が決まるという認識でよいのか。

【回答】

現時点では、令和9年3月の計画完成を目指して取組を進めている。

菁莪小学校校舎の建替えについて

【質問】

資料に「菁莪小学校校舎の建替え」と記載されているが、資料に示された時期に実施されるという認識でよいのか。

【回答】

菁莪小学校については、現状では予算上の制約等から十分な整備を行っていない。

今回資料に掲載している内容は、過去に未実施となっている整備内容を仮にその時期に集約して実施した場合のコストシミュレーションを示したものである。

菁莪小学校の建替えを確実にその時期に実施することを示したのではない。

学校施設を使用しなくなった場合の跡地利用について

【質問】

学校再編により学校施設を使用しないこととなった場合、すぐに校舎を解体するのか。

閉校後の跡地利用については、防災拠点、学習支援施設、レンタルスペース、民間のノウハウを活用した活用など、さまざまな可能性が考えられるが、どのような方針で利活用を考えているのか。

【回答】

跡地利用については、現在、市長部局のファシリティマネジメント推進課において、公共施設に関する計画策定を進めている。

今後も、地域や関係者の皆様の意見を幅広く伺いながら、多角的な視点から検討を進めていく。

(4) 南中学校区 主な質疑応答

学校施設の老朽化と今後の学校整備について

【質問】

資料の耐震基準に関する部分が気になった。特に旧耐震基準の施設については、しっかりと対応する必要があると思う。

学校の適正規模・適正配置について、学校を新設するなどの対応は考えていないのか。

【回答】

菁莪中学校区・南中学校区については、特に菁莪中学校の生徒数の減少が著しく、現在、1学年1クラスとなっている状況である。

このような状況を踏まえ、早期の統合も含めて検討している。

また、将来的には、菁莪小学校、菁莪中学校、南小学校、南中学校を1つの学校とした義務教育学校化も含めて検討している。その場合には、学校施設の新築や大規模改修を実施することを想定している。

篠津中学校区については、篠津小学校、篠津中学校、白岡東小学校を1つの学校とした義務教育学校化も含めて検討している。

特に篠津小学校については、築60年が経過しており、耐震改修により当面の安全性は確保されているが、長寿命化には適さず、早期の建替えが必要な状況である。

学校再編後の通学負担と通学手段について

【質問】

学校再編により通学距離が伸びることが想定されるが、現在、白岡市の中学生は自転車通学が許可されていない。

今後、学区が広がった場合、登下校時の熱中症なども心配である。中学生の自転車通学を認めることで課題解決につながるのではないかと。

また、小学生については、大山小学校が西小学校に統合されて1年が経過したが、通学に関する課題への対応策を検討しているのであれば伺いたい。

【回答】

学校再編を実施すると通学距離が伸びることが想定されるため、自転車通学やスクールバスの利用について検討していかなければならないと考えている。

通学負担については、保護者の皆様が重要視されている事項の一つであると認識しているため、今後、十分に検討していきたい。